

Kodama Garden Square

こだまテラス

Community Café / Space

Community Café / Space

「こだまテラス」とは、山口県周南市児玉町のシャトレーゼやCOFFEEBOYが並ぶこだまガーデンスクエアに、2024年6月12日にオープンしたコミュニティカフェ・スペースです。こだまテラスではカフェスペース、キッチンのレンタルを行っており、カフェやワークショップなど様々な用途でご利用頂けます。

七福アート・ONE DAYイベント in こだま開催のお知らせ

- 日時：8月11日 [日] ■ 場所：こだまテラス [周南市児玉町 2-18 2F]
 - 時間：13時受付開始 / 開催：13時30分～15時30分 [要予約]
 - 参加費：無料 [1ドリンク&お菓子付] ■ 募集人数：約20名
 - ご予約受付先：mail.info@shichifukuart.com
- Tel. 070-6693-2543 [松村・一般社団法人七福]

イベント [1]：対話型アート鑑賞会「脳が脱皮する美術館 in こだま」

ファシリテーション：福島 治 [東京工芸大学名誉教授 / 一般社団法人七福理事]



イベント [2]：障がいのあるアーティスト「hana - taba」展示 & 販売

所属：福祉メイキングスタジオうみべ所属 / 販売：原画 & ジクレー版画 [複製画]



こだまテラス・Community Café/Space



■ 対話型アート鑑賞：ニューヨーク近代美術館 [MoMA] が開催したVTSプログラムを「フククプラス」が障がい者アートを使い、人材育成プログラムとして改良、進化させた鑑賞プログラム。アートをじっくりと見て、おしゃべりするだけで、これまでの美術鑑賞が楽しくガラリーと変わり、早く美術館に行ってみたくになります。

■ 福島 治 [Osamu Fukushima] / グラフィックデザイナー / ソーシャルデザイン研究者

1958年広島生まれ。浅葉克己デザイン室、ADKを経て、1999年(有)福島デザイン設立。デザインにおける社会貢献の可能性を探求、実践する。2018年障がい者の創作活動支援のため、CSV型の(株)フククプラスを仲間と立ち上げる。2020年、市民芸術祭「アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」発起人・総合プロデューサー。9日間で13万人以上を集客。シブヤフォントの仕組みを全国に広げる「ご当地フォント」プロジェクトを開始。世界ポスタートリエンナーレトヤマ・グランプリ、メキシコ国際ポスタービエンナーレ第1位、カンヌ広告フィスティバル・金賞、障害者生涯学習支援の功績により文部科学大臣表賞など、国内外の30以上の賞を受賞。東京工芸大学名誉教授、(株)フククプラス共同代表、日本デザイナー学院顧問、一般社団法人アートパラ深川理事、一般社団法人ヨコハマフォント理事、一般社団法人七福理事、一般社団法人CCF理事、公益財団法人みらいRITA理事。著書：脳が脱皮する美術館(時事通信社)、クリエイティブで世界を変える(六耀社) / 作品集：世界のグラフィックデザイナー福島治(gggグラフィックス)、graphic wave(gggグラフィックス)



■ hana-tabu プロフィール / 平成元年生まれ。山口県岩国市在住。2級建築士の父が描く図面をみて、2歳頃より絵を描き始める。この頃よりPILOT製のハイテックCシリーズのボールペンを愛用している。最初は父親を真似て物差しを使って描いていたが、3歳の時に一瞬見たクマを完璧に描いた時に母は「この子はイラストを描く才能があるのでは?」と、感じたという。

アニメやマンガのキャラクターの模写を好んで描いていたが、現在の福祉事業所(福祉メイキングスタジオみべ)に通うようになってから、花束をモチーフにしたオリジナルのイラストを描くようになった。現在は、メルヘンチックなものや、スタンドグラス風なものなど多様なイラストを描いている。下書きをせずに、思い描いたイメージを一気に書き上げる画法が特徴。また、レジン小物や毛糸編みも得意とする。気分転換にシャボン玉を吹く彼女に、全ての人が癒されている。

